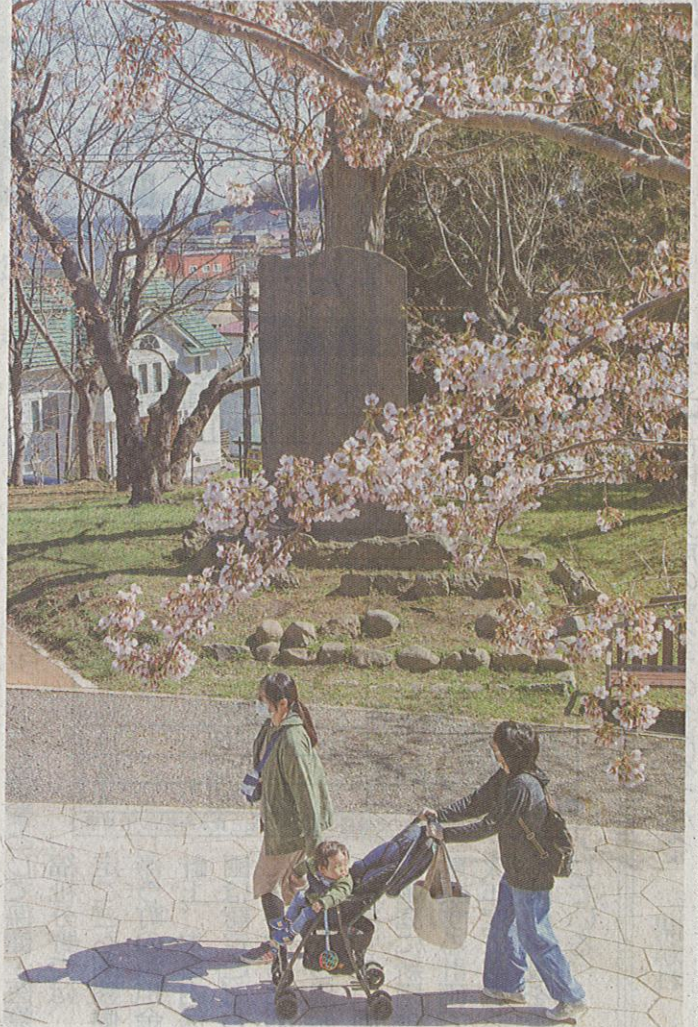


函館公園

サクラの下を散策する市民。奥に建つ桜之碑には逸見小右衛門の功績が刻まれている



逸見小右衛門の植樹から130年

函館市青柳町の函館公園 目。サクラの名所を夢見たでも桜前線が到達し、訪れる市民が増え始めている。今年には明治期の商人、逸見小右衛門(1848〜97年)が私財を投じて公園内に吉野桜(ソメイヨシノ)を植樹し、130年の節

目。サクラの名所を夢見た植栽した逸見小右衛門と妻ミヨの事績」によると、逸見は現在の長野県白馬村生まれ。68(明治元)年に函館に渡り、菓子や砂糖の販売などで財を成した。

2019年に七飯町在住の日本さくら会「桜守」で、函館桜友の会会長の浅利政俊さん(90)がまとめ、89(同22)年には亀田川の堤防沿いでサクラを植

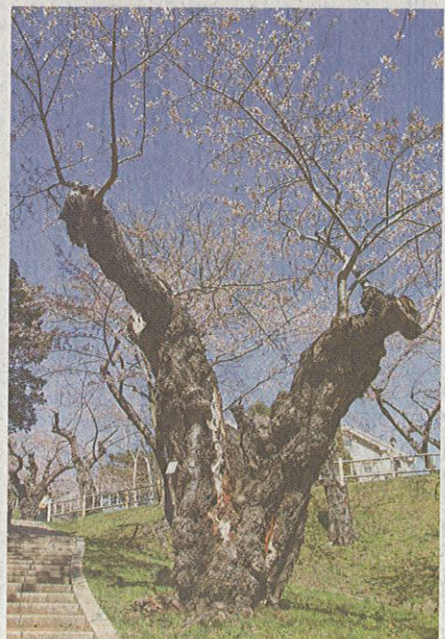
桜花の春、思いは今も

え、奈良の吉野山のように見の死後に妻ミヨが寄付したいと函館山一帯に苗木5万本の植栽を函館区役所に申請。花樹が少なかった同公園では91(同24)年5月にソメイヨシノ2000本、別種のサクラ200本、ウメ50本を植樹し、その後函館内外でサクラの寄付を続けた。

現在、逸見のサクラはほとんど残っていないが、公園内では北海池付近の古木が当時のものという。一方で亀田川沿いでサクラを見るのができたり、逸

浅利さんは「逸見小右衛門はこの地に適するか不安がある中でソメイヨシノを北海道で初めて取り入れ、先見性があった。ソメイヨシノはらんまんと咲き、満開の時期が一番美しい」と話している。

(今井正一)



公園内にあるサクラの古木